

○稲田議長 次に、田村議員。

〔田村議員質問席へ〕

○田村議員 打って出る米子市を目指す会派自由創政の田村謙介でございます。

本日は、農業振興について・2、そして米子市の観光振興とにぎわい創出について、そして米子城跡の復元とまちづくりについて・10ということの、この以上3項目についてただしてまいります。明快な御答弁をお願いをいたします。

気づけば私も3期目ということで、もう中堅議員となってしまいました。これまで2期8年の中で、私は提案型の議員として様々な提案をさせていただきました。期の途中で実現に至ったものも多数ございますが、いよいよそのまいた種を刈り取っていかなくちゃいけないという時期だと思っておりますので、過去の発言を引用しながら質問をさせていただきたいと思っております。項目が多数になってしまいましたので、途中早口になることをお許しくください。それでは、ただしてまいります。

まず、農業振興についてでございますが、前議会において同僚の門脇議員から、肥料の高騰についての質問がございました。そして、それにつきまして、いわゆる現在約1.4倍の上昇率とか、春肥、秋肥あるんですけれども、非常に高くなっていることについて行政としてしっかり支援すべきではないかというような指摘がっておりますが、市としては今後、国・県の肥料高騰対策の内容を見極め、支援が可能なのか検討したいということでございましたが、近隣の境港市では、もう既にこの補助事業というのが進んでおるようでございますが、本市ではまだ見えてきておりませ

ん。現状についてお尋ねをいたします。

○稲田議長 伊木市長。

○伊木市長 この肥料の価格高騰対策事業についてでございますけれども、本市といたしましても、今、国や県の助成要件、これを精査しながら助成の範囲や価格、金額など精査を行っているところでございまして、最終日提案ができるように、今、検討中でございます。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 最終日提案ということで、ありがとうございます。ぜひお願いをしたいと思います。

続けます。農業従事者の高齢化については、先般も安達議員のほうからも質問がございました。これについての市の見解と今後の対策についてお伺いします。

○稲田議長 赤井農林水産振興局長。

○赤井農林水産振興局長 農業従事者の高齢化についての見解と対策についてでございますが、米子市内の農業従事者の高齢化が進んでおり、離農される方が増える一方で、後継者や担い手は不足しているため、年々農地の保全や維持が困難な状況になっているものと考えております。対策としましては、高齢化により農業従事者が減少していく中で、新規農業法人の参入、新たな農業を開始する新規就農者や親元就農者などを呼び込み、さらには、今、農業に従事されている方には、農業経営を継続し拡大を目指していただくよう促すなどして、地域農業の担い手を確保することや農地の集積や集約を推進することが必要であると考えております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。高齢化に対しては、やはり市も認識していただいているということで、しっかりとお願いをしたいと思うんですが、平成30年12月議会で、私はいわゆる農業用水のことについて質問をしております。いわゆる引用させてもらいますが、自然災害が来て、委託を受けた地元の農業者の方が軽トラで出かけていっては、ごうごうと流れる川の横で一生懸命滑る水門を操作していると。ライフジャケットが配布されたということだけど、それでよかったということではなく、やはり国・県と協調して一刻も早く機械化を促進すべきだということを提案をしております。これについて、高齢化等で樋門の開け閉めが体力的に大変危険だということで、開閉を自動化することが必要だと思います。施設管理者との調整ということ、いろいろありまして見据えた協議を行いたいと前向きな答弁をいただき、私は感謝の言葉を申し上げております。それから数年もたっておりますが、現状をお伺いします。

○稲田議長 赤井農林水産振興局長。

○赤井農林水産振興局長 農業用水門の電動化の状況についてでございますが、農業用樋門の総数は国、県、市、合わせて131基あります。樋門の電動化の状況につきましては、国の樋門は5基あり、全て電動化されております。県の樋門につきましては、64基のうち平成29年度までに5基、平成30年度以降に4基が電動化されております。市の樋門については1基が電動化されております。先ほど議員が提案されている電動化の推進につきましては、今後も県及び市の樋門については、更新及び維持修繕時に事業化に向けて協議したいと考えてまいります。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 ありがとうございます。非常に喜びの声というのも実は私のほうにも届いておりまして、よかったわというふうに言っていたいております。引き続き、これについては、高齢者の方が農業従事者の方の負担軽減ということを念頭に、さらに進めたいというふうに要望したいと思います。

それでは、農地保全活動の現状と課題についてお伺いします。

○稲田議長 赤井農林水産振興局長。

○赤井農林水産振興局長 農地の保全活動の状況と課題についてでございますが、現状については農業従事者の高齢化が進む中、農業従事者の尽力のおかげで現在は辛うじて農地の保全は保たれているものと認識しております。課題についてでございますが、今後、これ以上の農業従事者の高齢化が進み担い手が不足してくれば、農地の保全が困難になるものと危惧しております。そのために、農地の規模拡大等に意欲的に取り組む農業者、農業法人への農地の集約の推進やスマート農業の推進、新規就農者の発掘や育成支援を、JA鳥取西部をはじめ関係機関と連携しながら、さらなる支援に取り組んでいきたいと考えております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。それでは、多面的機能交付金というものがございます。いわゆる農地保全活動を地域の方々にやっていただく、そういったモチベーションアップにつながるような交付金事業だと思っております。これの件数、金額についてお伺いをいたします。

○稲田議長 赤井農林水産振興局長。

○赤井農林水産振興局長 多面的機能支払交付金の過去5年間の取組件数及び交付金額についてでございますが、令和3年度は、42組織に対して4,542万5,722円、令和2年度は、42組織に対して4,579万5,103円、令和元年度は、41組織に対して4,758万4,541円、平成30年度は、44組織に対して4,991万5,229円、平成29年度は、43組織に対して4,402万7,100円を交付しております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。いわゆる高齢化によって、実施団体が減っているんじゃないかというような意見を聞いておったんですが、さほど変わってないのかなというふうに思います。しかしながら、その中身といいますと、やはり従事される方の高齢化というのはどんどん進んでいると。また、思った以上に若い方が変わってきてないというような現状がありまして、これについても近い将来、どんどん件数、金額等も下がっていくんじゃないかというふうな危惧をしております。

先般、私、8月の28日に、早朝から地元尚徳中学校区の農業者の方々の農事実行組合が主催される川ざらい作業に参加をしております。非常に約2キロの区間を一生懸命掘って、大変な作業でして、それが終わった後に、今度は法勝寺川の四ヶ村堰というところに移動して、3年に1回の事業なんですけれども、いわゆる水門、四ヶ村堰の手前に堆積していく土砂を手でかいて、法勝寺川に流して、水門付近の土砂を空けるという非常に厳しい重労働をさせていただきました。周りの方、私より皆年上の方ばかりで、中には80代の方が御主人が体調が崩れて、私が今まで出

てなかったけれども出るようになりましたというお母さんもいらっしやいました。非常に心痛んでます。こういうものについて、いわゆる小型のユンボ等についての川ざらいについての、実際市内でも実績があるというふうにありますし、せんだっての安達議員の質問にもあったと思いますが、その具体的な検討というのを全市的にやるべきじゃないかというふうに考えております。見解を伺います。

○稲田議長 赤井農林水産振興局長。

○赤井農林水産振興局長 市で対応した水路しゅんせつの実績についてでございますが、令和3年度の実績は日下地区、榎原地区、古市地区、淀江地区、大崎地区など、11か所実施させていただきました。今後の緊急的な対応として、堆積土により通水不良となった場合は、市において現地を確認して、必要があればしゅんせつをしていきたいと考えております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。地域の方にもこの情報はどんどん流したいと思えますし、本当に詰まってしまった場合には、市がしっかりと対応していただけるといふふうに解しましたので、どうぞよろしくお願ひしたいと思えます。いわゆる米子市の基幹産業である農業については、やはり当面の高齢化の課題というのはすぐに解決できませんけれども、やはりこういったことの積み重ねが農業を続けてみようかなと、米価下落だけど頑張ってみようかな、そういったモチベーションにつながるものと考えております。引き続き、支援のほうをお願ひしたいと思えます。

続きまして、米子市の観光振興とにぎわい創出についてお伺い

をいたします。

近年の観光振興における予算配分をお伺いをいたします。

○稲田議長 深田文化観光局長。

○深田文化観光局長 近年の観光振興における予算配分でございますが、皆生温泉エリアと米子城城下町エリア、それとその他の3区分に分けて、過去3年間の予算配分の割合を報告させていただきます。令和2年度につきましては、観光の予算額2億8,540万6,000円のうち、皆生温泉は29%、米子城城下町は3.2%、そのほかは67.8%でございました。令和3年度は、2億3,392万6,000円のうち、皆生温泉は10.7%、米子城城下町は7.1%、そのほかは82.2%でありまして、令和4年度につきましては、5億1,972万7,000円のうち、皆生温泉は51.8%、米子城城下町は12.5%、そのほかは35.7%でございます。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 以前から何度も指摘をしてるんですけども、やはり米子市の観光施策というのは、どうしても皆生偏重型であります。いわゆる令和4年度は皆生温泉51.8%、城下町については12.5と3年前の3.2%から、随分僕も口うるさく言ってますので上げていただいたのかなと思うんですが、まだまだバランスとしておかしいと思います。特に、皆生温泉につきましては様々な旅館、ホテルなどの事業者、結構なロットを持ったところがそういった組合をされとって、そこに対してお金をお渡しされたりとかやっておられる一方、米子城とか城下町観光というのは個人がやっとならるんですね、知っとならると思いますけども。個人が

されとって、本当に風前のともしび、そういったところに私はどんどん支援してくださいとお願いをしてるんですが、やはりこれぐらいの状態だということは非常に残念です。せんだっての議会の中で、私は文化振興課が観光を担っているのには無理があるということ、それといわゆるこれまでの米子城を魅せるプロジェクトなど、全て観光と言いながらも教育費で支出をされておるということについての問題点を指摘させていただきました。市長からは、議員御指摘のとおり、こういったものは観光課、観光協会がしっかり担っていくべきだという御答弁もいただきほっとしてるんですけれども、やはりこれは早期に是正をしていただきたい。私、県予算を活用して、いわゆる半々でもまちづくりに資する予算等を取れないかということも考えたりしておりますけれども、やはりこれについては問題点だということを大きく指摘させていただきたいというふうに思っております。

続きまして、皆生温泉のにぎわい創出について現状をお伺いしたいと思います。

○**稲田議長** 深田文化観光局長。

○**深田文化観光局長** 皆生温泉のにぎわいづくりの現状でございますが、令和3年に行いましたK A I K E A K A R I P A R Kの結果を基に、皆生温泉の夜間景観形成の基本方針を定めました。皆生みらいの灯りコンセプトを作成し、そのコンセプトに基づき、令和3年度は四条通りと中央通り、令和4年度は海岸遊歩道といったエリア内の照明の暖色化を進めておりまして、温泉情緒あふれる雰囲気夜間の宿泊客の周遊、あるいは誘客を目指し、のにぎわいにつなげる取組を進めているところでございます。

また、皆生温泉エリア経営実行委員会の補助金を活用いたしまして、令和4年の3月には、民間事業者が皆生温泉を歩いて楽しいまちづくりにしていくための実証実験、ぐるぐるかいけを実施いたしました。観光センター前とか、皆生の海浜公園での飲食ですとか、マーケットの実施、松林での休憩スペースの設置、砂浜でのビーチスポーツの実施ですとか、グリーンスローモビリティーなどを実施いたしまして、コロナ禍にもかかわりませず約4,000名の方が訪れ、皆生温泉エリア全体を活用いたしましたにぎわいの在り方が示されたところでございます。加えまして、今シーズンの皆生温泉海遊ビーチは、リニューアルやPRの効果もあり約5万5,000人の多くのお客様にお越しいただきまして、コロナ禍前に近いにぎわいを見せたところでございます。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。このにぎわい創出の施策については、私も、今年度、非常に頑張っておられるなど、皆生についてはそういうふうに思っております。

そういった中で、やはりにぎわいが戻ってくるということは非常にうれしいと思いますし、これはどんどん進めていただきたいなと思うんですが、いろんなイベントがございました。その中でちょっとお尋ねをしたいことがございます。

皆生温泉開湯100周年記念事業というものがございました。いわゆる開発100周年記念事業というものもあり、これについてはちょっとよく分かんないわという市民の方もいらっしゃいます。この2つ、どういった事業だったのかお伺いします。

○稲田議長 深田文化観光局長。

○深田文化観光局長　まず、皆生温泉の開湯100周年記念事業でございますが、こちらのほうは、地元の漁師によりまして温泉が発見されて100周年の節目でございました。平成12年に温泉を核といたしました誘客のイベントですとか、温泉施設整備などを中心に実施されたものでございます。一方、皆生温泉開発100周年記念事業につきましては、皆生温泉が有本松太郎氏によりまして温泉地としての開発が行われてから100周年の節目でありました令和2年から3年にかけて、皆生海浜公園のトイレの新築ですとか、皆生の歴史にまつわります企画巡回展など、コロナ禍ということもございましたので、地元住民をメインターゲットといたしました皆生温泉の魅力を再認識させる事業を中心に実施されたものでございます。

○稲田議長　田村議員。

○田村議員　よく分かりました。皆さんに配付しております資料を御覧いただきたいのですが、皆生温泉開湯100周年記念事業の中で、皆生を訪れた観光客などから募集した手形を地元の法勝寺焼で仕上げた陶板というのが、いわゆる埋め込まれた手形の道っていうんですかね、というのがございます。私、先般も歩いてみるんですけれども、どこにも、いわゆる手形の道だよという認識できる掲示物が一切ないということでございます。それと、残念ながら、この中には、いわゆる剥がれ落ちてるものというのが多数ありまして、写真右側なんかもう割れちゃってるんですよ。こういうものは以前は実はもっとあったんですけれども、非常にきれいになっておるといふ状況で、貼ったのかなと思ったら、どうもそうじゃないような気がします。捨てちゃったのか分かりま

せん。しかしながら、この一つ一つにはいろんな、この事業に参加された御家族だったり、お子さんだったり、将来の夢を書き込んだり、いろんな思いが詰まった手形であります。それが、いわゆる心温まる皆生のまちづくりの一翼を担ってたはずなんです、このような状態で放置をされてるということは、私、その当事者ではありませんが、許せないと思っております。これについて早急に改善していただきたい、できる限りですよ、ないものは仕方ないんですけれども、それについての見解を伺います。

○稲田議長 深田文化観光局長。

○深田文化観光局長 御指摘の手形につきましては、平成12年に皆生温泉旅館組合のほうが開湯100周年の自主事業として設置されたものでございます。20年以上が経過いたしまして、古くなり、剥がれているものが多くございますのは、議員御指摘のとおりでございます。市といたしましても、修復など景観保全の必要性を感じておりまして、手形の所有者でございます旅館組合と協議をしているところでございます。早急に対応を決めていきたいと、そのように考えております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 ありがとうございます。ぜひお願いをいたします。

それでは、続きまして、質問いたします。開湯110周年記念事業として整備をされた潮風の足湯というものがございます。これは、2つ目の足湯として、いわゆる米子市が当時の1,900万円をかけて、温泉街の一角に整備したものであるということになっておりまして、現在も多くの方が利用されてるというふうに思っております。これについては、例えば観光センターの隣にある足湯で

すと、いわゆる窓口に行って、タオルを買う、貸してもらう、いろんな形で一見のお客さんも楽しめるのですが、この潮風の足湯については何もないということで、先日見たときには、何か普通のハンカチですか、あんなんで足を一生懸命拭いてらっしゃる御婦人がいらっしゃって、非常に心を痛めました。私も通りながら、すみませんって頭を下げて通ったわけなんですけど、ここに例えばタオルの販売機というのを設置できないでしょうか。いわゆる地域の方のみならず、観光客、一見の方々も気軽にこの足湯を楽しんでいただける。座りながら、この開湯110周年にかけた思いなどが見れるみたいな状況があったり、潮風を感じながら快適な時間を過ごしていただけるんじゃないかと、そう考えますが、見解を伺います。

○稲田議長 深田文化観光局長。

○深田文化観光局長 議員おっしゃいますとおり、花風の足湯につきましては、タオルの無料貸出しのほう、好評だというふうにお伺いしております。一方、皆生海浜公園の潮風の足湯につきましては、観光センターから離れてることもございまして、貸出しは行ってないところでございますが、議員御提案のタオルの自動販売機につきましては、足湯利用者の方の利便性の向上、満足度向上につながるアイデアだと、そのように考えておりますので、設置の可能性につきまして、公園を管理しております指定管理者ですとか、皆生温泉旅館組合のほうと相談してまいりたい、そのように考えております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 ありがとうございます。続けてありがとうございます。

すが続きました。本当に前向きな御答弁だったと思います。全国にやはり、先般「ブラタモリ」という番組、NHKで放送されました。私の親戚の石村さんが御案内をされとってびっくりしたんですけれども、そういう全国に発信する状況があります。また、「せっかくグルメ！！」、これは私、令和3年12月議会で「バナマンのせっかくグルメ！！」という番組があり、もし米子に来た場合に米子は何を勧めるんですかということ、いわゆる御当地の名物、そういったものをつくったほうがいいんじゃないかという御提案をさせていただいておりましたが、もうついに来ちゃいました。ニンニクラーメンとおそばと、オムレツとエビフライでしたか、米子の味ということになっちゃいました。あれを見て、多くの方、来ていただけたらうれしいなと思うんですけれども、やはりこういった、来た方に足湯なんか、皆生温泉にもぜひ入っていただける一つの入り口になると思う事業だと思しますので、ぜひお願いしたいと思います。

海遊ビーチについて、リニューアル前後の入り込み客数の推移というのは分かりますでしょうか伺います。

○稲田議長 深田文化観光局長。

○深田文化観光局長 皆生温泉海遊ビーチのリニューアル前の入り込み客数についてでございますが、令和元年度は5万5,000人、コロナの影響を受けました令和2年度は2万人でございました。リニューアル後の入り込み客数は、令和3年度は2万4,000人、令和4年度は、先ほども触れましたが5万5,000人で、多くのお客様にお越しいただき、コロナ禍前に近いにぎわいを見せたと感じ取っておるところでございます。ビーチのリニューア

ルですとか、PRの効果、さらには先日、大手旅行サイトの海水浴場ランキングで山陰、山陽地区の1位に選ばれたことも要因となりました、海の砂浜を生かしましたマリンスポーツですとかアクティビティ、食やスイーツが楽しめるテラスの開設などの取組がお客様に評価されたものではないかと、そのように受け取っております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。この海遊ビーチについては、また10月ですか、ティラノサウルスレース in 皆生というのが開催されるなど、いわゆる夏だけでない活用というのが進みつつあるなというふうに喜んでおるところでございますが、一方、先日、海遊ビーチの展望デッキ、そして売店が閉鎖となっております。これが設置された際には、いわゆる季節関係なく、この海遊ビーチ、楽しんでいただく、そういったコンセプトがあったというふうに私は認識をしておりますが、なぜこれが撤収されたのか伺います。

○稲田議長 深田文化観光局長。

○深田文化観光局長 議員のおっしゃいますとおり、皆生温泉エリアの砂浜の通年活用というものは重要なコンセプトに位置づけているところでございます。今年は海水浴場開設前のゴールデンウィークから店舗のコンテナと漁火テラスの設置をいたしまして誘客を図っていたところでございますが、海水浴シーズン以降にコンテナとテラスを運営しております民間事業者のほうによります活用の計画がないことから撤収されたものでございます。今シーズンのコンテナですとかテラスのビーチでの活用というのは一旦終了したところでございますが、海に開かれた皆生温泉の実現

に資する取組といたしまして、秋から冬にかけての約1か月間の期間でございますが、皆生温泉の砂浜のほうに飲食ブースや休憩スペースなど楽しめる場所を設置いたしまして、来訪者の滞在時間延長と人流の促進を検証いたします社会実験を行う予定としております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。仕方がないということでしょうかね。しかしながら、やはり当初計画の中で、できたら秋までという計画の下に事業者選定を行うべきではなかったのかなということを考えております。終わってしまったものは仕方ありません。

それでは、続けますが、この海遊ビーチのいわゆる飲食ブースがあるエリア、そのすぐ後ろに、いわゆる公衆トイレ、展望台付きのトイレがございます。8月に私、岩崎議員と一緒に皆生ライフセービングクラブの会長さんと面談をしに伺った際に、そこでお話ししたんです。始終トイレの臭いが漂っておりました。私も飲食はさせてもらったんですが、ちょっと次の注文はやめようかなというふうに思うぐらいの臭いでした。これについては、やはりせっかくいい設備があって、いいサービス提供してるにもかかわらず、いわゆる残念なことであり、それがまたSNS等で拡散されたらとんでもないなというふうに感じております。これについては早急に、このトイレの臭い対策を実施していただきたいと考えますが、当局の見解をお伺いします。

○稲田議長 深田文化観光局長。

○深田文化観光局長 議員から情報提供をいただきまして、所管課のほうで現地を確認いたしました。残念ながら、現状、原因

について特定することができておりません。不快な臭いにつきましては、皆生温泉海遊ビーチの運営者であります米子市観光協会からも、市としても報告を受けておりまして、できる限り早急に臭いの原因を特定し、解消したいと、そのように考えております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 ありがとうございます。ぜひお願いをいたします。来シーズンも同じ場所なのか、ずれるのかは分かりませんが、こういうことが、いわゆる危険といいたいでしょうか、もう既に分かっているインシデントであります。こういったものについては早急に対策いただいて、次のシーズンは快適にお過ごしいただける、そういった対策をつくっていただきたいと考えております。

続きまして、地ビールフェスタについて触れてまいります。私、これも以前に引用したことあるんですが、平成27年の6月議会において、こう発言をしております。皆さん、地ビールフェスタというイベントを御存じでしょうか。先週末に開催された地ビールフェスタ2015は大山榭水高原で開催されております。今年5回目のそのイベントは、山陰在住の外国人と地元酒造メーカー、地元自治体がタッグを組んで開催される一大イベントで、私も国際交流団体の会長として、2日間、ボランティアスタッフとして参加をしてまいりました。今回、主催者の要請で、地元の伯耆町さんが今年初めてシャトルバスを提供されました。米子駅と榭水高原を結ぶシャトルバスのおかげで、2日間で3,500人を超える人々が大山の自然を楽しみ、おいしい地ビールを満喫されました。伯耆町の職員も4名、一生懸命汗を流しておられ、官民一体となったにぎわい創出のヒントは、米子市ではなく、隣町にあっ

たようでございます。ぜひ米子市も負けることなく取り組んでいただきたい、そのように私は提案をさせていただきまして、その翌年、平成28年の6月のこの会に、大塚経済部長が視察に来られました。当時の商工課長さんに、うちの経済部長来てますけん、ちょっとお願いしますというふうに言いまして、一緒に視察を、案内をしていただいた。そういった中で、いわゆる米子のほうに話が入ってきて、平成30年7月、稲田議長、当時議員の質問に対し、高島屋東館のオープンのにぎわい創出の具体的な取組として、8月末からプレミアムフライデーを活用いたしまして地ビールフェスタをスタートしたいと、計画がされておりますという答弁がっております。それからもう既に4年がたって、私、1回目からずっと、中止のとき以外は顔を出すようにはしておる、そういった愛着のあるイベントであります。そういったものが、本市としては取り組んでいただいているんですが、どんどん影が薄くなっていったというふうに私は感じておりますが、本市の取組と課題、そういったものはどういったものを見解持つておられるのか、伺いたいと思います。

○稲田議長 若林経済部長。

○若林経済部長 地ビールフェスタ in 米子の開催に係る本市の取組状況及び課題についてのお尋ねでございます。地ビールフェスタ in 米子は、角盤町商店街振興組合を中心に、民間事業者等で実行委員会を構成し、開催されているイベントでございます。令和元年度から昨年度まで、地ビールフェスタ開催に必要な設備や器具、備品のリースに係る経費のほか、広告宣伝費等の一部を米子市として助成してきたところでございます。今年度は、開催

されるエリアを限定せず、イベント集客のための宣伝広告費に係る経費の一部を支援する制度といたしたところでございます。また、必要に応じまして、本市職員も会場設営や撤去などの運営に参加、協力してきたほか、地ビールフェスタの周知につきましても、本市ホームページやSNSを活用するとともに、本市職員に対しましても、庁内掲示板を活用した周知を行って、積極的な参加を促しているところでございます。なお、課題につきましても、開催日の不順な天候と新型コロナウイルス感染拡大による影響により伸び悩んでいる状況があると認識しております。

○**稲田議長** 田村議員。

○**田村議員** コロナとか天候で伸び悩む、それはよく分かるんですが、私、大きい課題としては、やはりこのコンセプトとしては、夜の朝日町を盛り上げると、そこに集まった人たちを、それを誘導して朝日町に行って、またお金を使っていただくというのが基本的なコンセプトであったんではないかというふうに考えております。そういった誘導策がいまだに見えてこない、これについての見解を伺います。

○**稲田議長** 若林経済部長。

○**若林経済部長** 朝日町や周辺飲食店への誘導策が見えてこないというお尋ねでございます。地ビールフェスタは令和2年度、3年度とも年間12回の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの影響により、それぞれ7回中止になりました。また、新型コロナウイルスの影響は朝日町周辺だけではなく、市内にある飲食店が大きな影響を受けております。こうした状況下でも、地ビール

フェスタが開催された際には、主催者から来場者に対し、周辺の飲食店へ足を運んでいただくよう会場アナウンスを続けられています。私も個人的に二次会で流れているんですが、また角盤町、朝日町のエリアにつきましても、これまで周辺の飲食店が中心となりまして、KAKUBAN GO!やふるまい酒などといったイベントを開催され、人の流れをつくる取組をされております。本市といたしましては、コロナ禍における飲食店利用促進策を昨年度以来実施してきたところでもございます。いずれにいたしましても、周辺エリアのにぎわい創出や活性化につながる民間事業者の取組を今後も支援してまいりたいと考えております。

○**稲田議長** 田村議員。

○**田村議員** 分かりました。二次会で行っていただいているということで、ありがとうございます。

以前、令和元年6月議会で、市内の宿泊施設を当日利用された、いわゆる県外の方々に対して、本日、地ビールフェスタ開催しますよというようなチラシを渡したら、そういった新たな人たちも来るんじゃないかということを提案しておりますが、そういったことをされてないようです。なぜでしょうか、伺います。

○**稲田議長** 若林経済部長。

○**若林経済部長** 当日宿泊者へのPRについてでございます。地ビールフェスタの周知の方法につきましては、実行委員会で検討されているところでございます。昨今の地ビールフェスタは新型コロナウイルスの影響で中止になることが多いこともありまして、機動的に対応するSNSなどの媒体を中心に広報を行っておられると伺っております。一方、7月に皆生温泉海浜公園で開催され

た出張地ビールフェスタにおきましては、皆生温泉旅館組合と連携して、ポスターの掲示や宿泊客へのチラシ配布等のPRに取り組んだことで、多くの観光客や宿泊客が来場し、過去最多の来場者だったと伺っております。こういう取組を市内の宿泊施設に広げていくことができないか、市としてできるサポートがあるかということのを改めて関係者と話してみたいと思います。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。これについては、中止とかっていうことはありますので、地ビールフェスタ、今夜開催みたいな、そんなんでいいと思いますよ、場所はここ。要するに何月何日って書いちゃうともう使えなくなりますのでね、そういったものを提案したいと思います。来られた、せっかくたまたまその日に米子に宿泊をしていただいた県外の方に、ぜひ地元の地ビール1杯おごってあげてもいいんじゃないか。これ持っていくと1杯飲みますよとなると、それで終わらないですよ。そうすると2,000円券買ってくれるかもしれないし、うまくいけば使わずに帰っちゃうかもしれない。そういうことも考えて、そういった呼び水となる施策として考えられないか伺います。

○稲田議長 若林経済部長。

○若林経済部長 私、中心市街地活性化協議会の事務局にいたことがございます。割引等の手続とか、できるだけ簡素化ということも当時検討されたこともありますので、本日いただきました提案も関係者にお話ししまして、可能かどうかということを検討してまいりたいと思います。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 ぜひお願いをいたします。続きまして、米子駅南口周辺の活性化について、現在の検討状況を伺います。

○稲田議長 八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長 駅の南口の活性化に係る現在の検討状況についてのお尋ねでございますが、先日の答弁とちょっと重複いたしますけども、この南口周辺の活性化につきましては、現在、米子駅周辺活性化連携会議、いわゆる四者会議と言われるものですが、その中で、にぎわい創出等に向けた具体的な検討をしていくこととしております。この連携会議につきましては、令和4年6月に第1回を開催させていただいて、米子駅周辺整備事業に係る現在の状況、そして今後の課題等について報告した後、現時点におきましては、それぞれの課題について部会を設置し、協議を進めているところでございます。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。四者協議は、これはいいんですけれども、連携会議いいんですけれども、やはり、じゃあ、どこが担当するのと、どこマターでこれ進めるんだということを考えたときに、やはり各四者とも慎重になるんじゃないかというふうに私は思っています。一般的には公募型プロポーザルによる、いわゆる提案を受けて、それを受けるかどうか、そういった審査を市民も一緒になって考える、費用対効果等も含めて、そういうのが普通のやり方ではないかというふうに指摘をしたいと思います。

では、続けて、以前提案をした退役車両の保存展示活用について、現在の検討状況をお伺いいたします。

○稲田議長 深田文化観光局長。

○深田文化観光局長 退役車両の活用につきまして、以前に議員から御提案をいただいたところでございますが、特急やくもの新型車両更新後の退役車両につきましては、鉄道資料として観光資源となる可能性を持っていると捉えておりまして、J Rに御意見をお伺いしましたが、鉄道資料として使用する場合を除き、原則、譲渡してないとの回答を以前いただいております。しかしながら、その譲渡を実現していくためには、設置場所の選定ですとか、費用のことですとか、管理主体の決定など、そのようなクリアすべき課題がありますことから、そのような課題を調整しながら、引き続きJ Rと協議していきたいと、そのように考えております。

また、湊山公園に設置しておりますD 5 1につきましては、現在、塩分を含みます中海に近い場所にあることから、米子駅周辺の適した場所への移設を視野に、今後J Rと具体的に相談してまいりたいと、そのように考えております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 この移設については、本当に喜びたいと思いますし、私も以前から言っております、中田議員も言っておられました。私、以前から扇形車庫の一番右側にS Lを置いたら、観光資源になるんじゃないのということは言っております。そういったことも含めて、ぜひ御検討いただきたい、協議いただきたいというふうに思います。

あと、D 5 1の文化財化というのが行われるようであります。これによって、保存手法というのは、現在の野ざらしの状態から改善できるのか伺います。

○稲田議長 伊木市長。

○伊木市長 このたびの文化財指定を契機といたしまして、この老朽化が進んでおります車体の修繕ですとか、あるいは適切な場所への移設など、多くの人々に親しんでいただけるよう対応いたしますとともに、鉄道のまち米子を象徴する貴重な文化財として大切に保存し、後世に伝えていきたいと考えております。また、保存場所につきましては、先ほど局長からも答弁ございましたけれども、JR側とも協議をしながら考えていきたいと思っております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 これは中田議員もおっしゃっておられましたけど、レールの近くがいいというのが普通の姿じゃないかというふうに思いますので、駅構内、隣接地等にぜひお願いをしたいと思っております。私、令和2年12月議会で、平成18年から10年間放置状態にあるということの指摘をさせていただきまして、令和元年の9月、再塗装を終えましたという報告をいただいております。やはりそういったものを観光資源として大切に使うということをぜひお願いしたいと思っております。

続けて、文化財ということでお話を続けますが、掩体ごうについて文化財化、これ渡辺議員と私、共同でお話をさせていただきまして、新聞にも2回載りました。これについての見解、文化財化についての見解を伺います。

○稲田議長 深田文化観光局長。

○深田文化観光局長 この掩体ごうの保存活用につきましても、議員から以前御提案があったところがございますが、このたびの文化財指定を契機といたしまして、埋設されている部分につきましても今後発掘調査を実施するなど、全体像を把握いたしますと

ともに、過去の歴史を直感的に感じることができる貴重な戦争遺産として平和学習に役立て、後世に伝えていきたい、そのように考えております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 これについては、観光課もしっかりと関与してやっていただきたいということ要望したいと思います。

次に、英語圏外国人材の活用についてお伺いをします。私もかねがね、平成26年から24回にわたって、これについては言ってきておりまして、それについては、まずイベント等でアンケートをするということでありました。本当に実施、集計されたんでしょうか伺います。

○稲田議長 深田文化観光局長。

○深田文化観光局長 アンケートの実施についてでございますが、インバウンド対策ですとか、まちおこしに関しまして、地域にお住まいの外国人から意見を聞くことについては、議員から様々な御提案をいただいているところでございます。その提案を受けまして、以前の議会でもちょっと触れさせていただきましたが、イベント等でのアンケートというのは実施しなかったところでございますが、国際観光案内所でのアンケートですとか、寄せられた意見の集約などを行ったところでございます。そのほか、意見の聴取の手法といたしましては、令和元年の6月に鳥取県国際交流財団との連携によりまして、市内にお住まいの外国人と、その意見交換会を実施いたしまして、いただいた意見をまとめまして、令和元年の11月に市議会に報告させていただいた経過がございます。なお、国際交流財団との意見交換会では、国別の好まれる

食事ですとか、鳥取県西部地域の観光地の印象ですとか、観光情報の入手手段、あるいは観光地周辺の交通手段などについて、日頃生活される中で感じていることの感想や御意見をいただいたところでございます。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。了解しました。先行実施されてる、いわゆる外国人材の活用として御意見を聞く、観光施策に役に立ってる、そういったことでは、本議会では私の提案についてやらないということをおわれた後に、山陰DMOさんがされたということとはございました。今回、YONAGOODというのができましたけれども、これについては先行の山陰DMOさんと連携を図っていくべきではないかと思いますが、見解を伺います。

○稲田議長 永瀬総務部長。

○永瀬総務部長 山陰インバウンド機構とYONAGOODの連携についてでございますが、山陰国際観光サポーターズをはじめ、様々なインバウンド事業に取り組んでおられます山陰インバウンド機構におかれましては、YONAGOODの発足前からインバウンドの醸成やアプローチ手法などについて相談をさせていただいているところでございます。YONAGOODも山陰国際インバウンド機構も、インバウンド促進の点において趣旨を同一にするものでございます。また、山陰インバウンド機構に限らず、国際交流財団、あるいは市内の様々な国際交流団体と今後も連携を図っていきたいと考えております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。では、YONAGOODのメンバー

選定の方針、それと発信内容の決定プロセスについて伺います。

○稲田議長 永瀬総務部長。

○永瀬総務部長 まず、メンバーの選定方針でございますが、このYONAGOODの企画に当たりまして、その主要メンバーでございます地元ケーブルテレビでリポーターの経験もございましたハンガリー出身のツァイドラー・オットー氏、このオットー氏のコミュニティをベースに、市にも相談いただきながら、米子市もしくは近隣市町村在住の外国人で、米子に興味や関心あるいは愛着ある方、在住外国人の目線で米子市のいいところを発信してくれる方を選定しており、今後も拡大をしていきたいと考えております。また、発信内容の決定プロセスでございますが、YONAGOODメンバーと本市との協議を踏まえて決定することとしておりますが、1回目の動画、これは予告編でございました。言わばチームの自己紹介的な動画としたものでございます。2回目以降の本編では、米子に住み続けていると気づけない外国人ならではの米子の魅力を発信していく、そのような検討をしているところでございます。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。それでは、続けて、英語圏の国際交流員の新規配置を訴え続けておりましたが、先般の、いわゆる議会答弁に対する取組方針というもののの中で私の名前、私の提案については、来年春をめどに配置できるように取り組むという回答をいただいております。非常に喜んでおります。ありがとうございます。

現在のところ、ゴールドコースト市とのアクション、市は何を

してきたのか、それと、英語圏国際交流員の選定状況、これをお伺いします。

○稲田議長 八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長 初めに、ゴールドコースト市への本市からのアクションでございますけども、ゴールドコースト市との交流につきましては、長年にわたり続けておられる皆生ライフセービングクラブとゴールドコースト市のライフセービングクラブとの交流、これを基軸に発展的につなげていきたいというような考えで、それをつなげていきたいというふうに考えております。さらには、ゴールドコースト市の姉妹都市であります他自治体の協力を得ながら、自治体交流の方策について、現在検討しているところでございます。

続いて、英語圏の国際交流員の選定状況についてでございますが、英語圏の国際交流員につきましては、関係機関への聞き取りや英語圏の国際交流員を配置している他の自治体の事例を参考に、国や自治体国際化協会が実施しているJETプログラムの活用や、ゴールドコースト市の民間交流団体からの推薦等、幅広く検討を進めているところでございます。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 これについては、一つ指摘しておきたいんですけども、いわゆる現在、韓国の交流員さんがJETプログラムで来ております。本市は江原道東草市というところと交流してるんですが、なぜその人ではなかったのかということであります。いわゆる交流してる相手、例えば今回だったらゴールドコーストというようなくくりになろうと思えますし、やはり今後の国際交流

員というのは、市民が親しく交流できる、そこから来た人が、その町のすばらしさを伝えてくれるというのが基本ベースにないといけないんじゃないかというふうに思っております。そこの辺り、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。お願いをしたいと思っております。

では、最後、米子城跡の復元とまちづくりについて・10ということで伺っておきます。

現在の進捗状況についてお伺いしておきます。

○**稲田議長** 深田文化観光局長。

○**深田文化観光局長** 現在の進捗状況でございますが、三の丸につきましては、広場の整備や内堀を見ていただけるよう、表出、表に出すことですね、させること、トイレ等の便益施設の整備を行うこととしており、今年度は整備工事に向けた設計業務を進めているところでございます。そのほか、今年度は園路整備工事に11月頃から現場に着手するほか、支障木の伐採、二の丸、石垣カルテの作成、案内板の設置工事などを順次実施する予定でございます。

○**稲田議長** 田村議員。

○**田村議員** 分かりました。進捗状況は遅延なく行われていると解しました。よろしく申し上げます。

先般、米子城、足を運びました。私、QRコードで、いわゆる米子城が見える、VRの米子城見てたんですけども、よく見ると、そういった看板が一切ないです。せっかくいい三の丸駐車場を整備いただいて非常に感謝しているところなんですけど、県外から来た人が降りて、まずQRコードをぴっとして見れるというような、そういった案内すべきじゃないかと思っております。文化がやる

からこうなるんだって、私、勝手に思ってしまったけれども、こういうのは観光として、ぜひ見てくださいというのをPRすべきだと思います。この看板設置、要望したいと思いますが、見解を伺います。

○稲田議長 深田文化観光局長。

○深田文化観光局長 看板の設置につきましては、今年度、三の丸駐車場への設置を予定しております。そちらのほうにQRコードについても設置したいと考えております。また、仮設の看板も現在あるところですが、そちらについてもQRコードの設置を併せて行いたいと考えております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 ありがとうございます。ぜひお願いします。付け加えるなら、英語はぜひ併記していただきたいなというふうに思います。いろんな国の方、今、円安で日本にどんどん来られとるいう状況がありますので、お願いをしたいと思います。

それでは、手すりの整備計画についてお伺いをいたします。いわゆる現在、福市の遺跡公園というのがあって、そこも同じ国史跡なんですけれども、非常に簡易的なものでして、非常に見栄えも悪い、そういったものがつくんじゃないかと危惧しております。見解を伺います。

○稲田議長 深田文化観光局長。

○深田文化観光局長 今年度、登城路、園路の整備工事に併せまして、簡易なものではない手すりを順次設置することとしているところでございます。多くの方に米子城跡に登っていただき、そのすばらしい景観を見ていただけるよう、環境を整えてまいりた

い、そのように考えております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 ありがとうございます。できたら、福市遺跡公園も恒久的なものにしてやってください。よろしく申し上げます。

新たな電源設備、いわゆるキュービクルというのを整備したらどうかと考えております。見解を伺います。

○稲田議長 深田文化観光局長。

○深田文化観光局長 今後、整備していきます米子城跡の施設の内容といたしましては、LED照明ですとか、ガイダンス施設ですとか、イベント用の広場の電源ですとか、そういったものを整備していくことを考えておりますが、消費電力がさほど大きなものとはならないことから、キュービクルの設置といった手法は取りませんが、常設の電源を確保していきたいと、そのように考えております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。手すりについては、私も平成26年9月議会からずっと言い続けております。ようやくできるということで非常に喜んでおるんですが、先般の議会において、市長のほうからも、夕景、夜景については取り上げていきたいということもお話がありましたし、夕景を見た後って暗くなるし、例えば明けまして米子城なんていうのは暗いうちから上がらなきゃいけない、そういったことを考えると、いよいよ登城路に常夜灯が必要なんじゃないか、もうこれをつけていただきたいというふうに思います。見解を伺います。

○稲田議長 深田文化観光局長。

○深田文化観光局長 以前から、議員のほうから、その常夜灯の提案をいただいているところがございます。今年度、登城路整備工事に併せまして、そのような足元の明かりの設置を計画しているところがございます。引き続き、ナイトタイムエコノミーに資する方策に取り組んでまいりたいと、そのように考えております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 ありがとうございます。もう本当に夢がかなった気がしますし、支援者の方にもしっかき報告ができると思ひました。

続きまして、いわゆる登城ができる方っていうのは増えていきます。お年寄りであるとか、一部の障がい者であるとか、そういった方に対してどんどん広報していただきたいと思ひんですが、見解を伺ひます。

○稲田議長 深田文化観光局長。

○深田文化観光局長 議員おっしゃいますとおり、手すりの完了後、登られる方、増えてくると思ひます。可能であれば、実際に登城された方の感想を含めまして、広報よなごですとか、ホームページなど、様々な媒体を通じ、周知、広報を図っていきたくて考えております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。例えばインフルエンサー、中嶋涼子さんという方が、車椅子の方がいらっしゃるんですが、そういったメディアにも出てるような方も上がれましたみたいなの、そういった広報ができたらなというふうに思ひております。またこれは引き続き提案してまいりたいと思ひます。

続きまして、新たな頂上でのイベントとして、頂上のテントサ

ウナというのを提案したいと思います。以前、岡田議員からも、サウナツーリズムについて様々な提案がっておりますが、私としては、頂上、テントサウナやったらどうかと。どうでしょうか、伺います。

○稲田議長 深田文化観光局長。

○深田文化観光局長 このサウナにつきましても、鳥取県におきましても、民間事業者によりますイベントの開催支援など、サウナツーリズムの推進に取り組んでおり、サウナというものは誘客コンテンツの一つであると考えております。米子城跡のほうで実施するとした場合、気象条件による影響ですとか、テントサウナを行うための機材ですとか、水の運搬ですとか、そのような課題も想定されますことから、まずはそのイベントを行っております民間事業者等の意見を伺ってみたいと、そのように考えております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 ぜひお願いをいたします。では、続きまして、現在、米子城のジオラマを作成するという動きがあります。また、米子城ビールというものを作っていきこう、そういった動きもあります。いずれにしても、市としてやはり何か支援していかなきゃいけないんじゃないかと考えますが、見解を伺います。

○稲田議長 深田文化観光局長。

○深田文化観光局長 まず、ジオラマのほうでございしますが、米子城を盛り上げたいとの思いから取組を考えておられるということで、非常にありがたいと、そのように感じております。今後は作成者の意向を踏まえまして、必要に応じまして対応してまいり

たいと思います。例えば広報のことですとか、設置場所のことですとか、いろいろ相談に乗ってまいりたいと思います。また、ビールのほうにつきましては、必要に応じて商工部門とも連携しながら対応してまいりたいと、そのように考えております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 よろしく願いをいたします。それでは、続きまして、以前、私、武者隊というのをつくったらどうかということを提案しておりましたら、数年後にまちなか観光案内所さんを中心として結成をされたということで喜んでおります。こういった動きについても支援をしていくべきではないか、甲冑の整備であるとか、そういったものにも補助金を出してあげてもいいんじゃないかと思えますし、また、米子城の、今まではなかったんですが、殿様とかお姫様とか、そういった新たなキャラクターというのも売り出したらどうかということを御提案いたします。いかがでしょうか。

○稲田議長 深田文化観光局長。

○深田文化観光局長 米子城武者隊は、本市が行っております米子城関係のイベントなどに参加いただきまして、演武を披露いただくなど、米子城の魅力発信に大いに貢献をいただいているところでございます。本市では、米子城跡を活用した観光コンテンツの造成などに取り組んでいるところでございまして、その中で必要な支援を考えているところでございます。また、殿様、姫様ということで、新しい御提案でございます。そのようなアイデアも参考にしながら、米子城を盛り上げる策を考えてまいりたいと、そのように考えております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 ありがとうございます。ぜひお願いしたいと思えます。

では、最後になっていきます。出山砲壇について以前発言をしております。復元整備について提案をしております。現在の見解をお伺いします。

○稲田議長 深田文化観光局長。

○深田文化観光局長 出山の砲壇でございますが、米子城は現在、三の丸を整備してるところでございますが、その後はほかのエリアにかかっていくと、このようになっております。出山につきましては、具体的に時期については今お示しすることはできませんが、将来的な整備に向けた検討を進めているところでございまして、その復元につきましては、遺構の確認調査などの詳細な発掘調査ですとか、史料の調査が必要でございまして、今後の行います調査結果を踏まえまして考えてまいりたいと、そのように考えております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 よろしく申し上げます。先般、私の支援者の方から絵図を2つ御提供いただきました。有償で買わせていただいたんですが、まず一つ、こういった図面、こういうのがあります。これに続いて、こちら、元治2年ですか、江戸末期に作ったと言われる絵図でありまして、皆さんお手元にあります資料の下ですね、この部分。いわゆる今まで明確に砲壇と書いたものは、私は資料として見てなかったんですが、ここでは3つ、大砲が3もあったということが見てとれます。こういったものを、もうこれで、こ

こは台場であるということが確定しておりますが、復元整備に向かうべきではないでしょうか、見解を伺います。

○稲田議長 深田文化観光局長。

○深田文化観光局長 今後行います遺構の確認調査、発掘調査を基に、米子城跡の整備の中で実現できるかどうか検討してまいりたいと、そのように考えております。

○稲田議長 田村議員。

○田村議員 分かりました。これは外国船打払令で鳥取藩が台場整備をしたのではない台場でありまして、いわゆるお上がやらないことは市民がやると。いわゆる公会堂、美術館建てた米子市民の、いわゆる勝手政治の原点じゃないかなというふうに私は考えております。シビックプライド醸成のためにも、こういった整備、しっかり取り組んでいただきたいことをお願いして、質問を終わります。

○稲田議長 暫時休憩いたします。

午後0時03分 休憩